

## 『国際交流委員会』

平野 わかば

今年度は重点目標として次の2点を掲げた。

(1) 姉妹校交流事業等により、生徒の異文化理解や外国語を学ぶ意義について理解を深めさせる。

(2) 国際交流委員会が、組織的・体系的に機能するように体制を整える。

### <今年度の主な活動>

本校は、国際理解教育に力を入れ、国際交流を積極的に推進している。本校の前身の一つである県立児島高等学校が平成9年にアメリカ合衆国カリフォルニア州にある市立デービス高校と姉妹校縁組みをして以来、現在まで関係が続いており、隔年で相互に生徒の交換留学をしている。今年度は、6月に受け入れ、3月に訪問の年となった。

また、長期留学生として、今年度4月より2月までの間、オーストラリアからの留学生リデイマダリンさんを受け入れている。



【WASHU コミュニティ・クリーンズに参加】

### 【国際理解講演会】

6月14日(金)7時間目に、デービス高校留学生受け入れをより有意義なものにするためと外国語を学ぶ意義について理解を深める目的で、国際理解講演会を行った。

講師は岡山県庁の国際交流員アラン・チャンブリス先生で、演題は「英語学習の意義と目的」だった。

アラン先生は自分の生い立ちから、何故自分が外国語(日本語)に興味を持ち学んだのか。またその過程で何を学んだのかを話して下さった「きっかけは何でもいいから、興味があることに飛び込むこと。それによって学びが楽しくなり、新しい世界の出会いが生まれ人生が充実したものになる。」と生徒に伝えて下さった。



### 【デービス高生 鷺羽高校での国際交流】

本年度は、6月19日(水)～28(金)の日程で、男子2名と女子7名の短期留学生を受け入れた。デービス高校の生徒はホストの生徒と同じクラスで様々な授業を受けた。「美術」「書道」「音楽」の授業にも参加し、「フード」の授業では、巻き寿司やみたらし団子などをつくり、日本の食文化にも触れることができた。



【歓迎式の様子】



【巻き寿司づくりに奮闘中】



【縫製工場で生地のカットを体験】



【できた。完成品】



【染め上げる前のトートバックを持ってパチリ】



【書道の時間にはうちわを作成】

今回は、新しい企画として、児島ジーンズ生産見学会を実施した。学校で児島の繊維産業の歴史・現状についての講義を受けた後、地元の生地生産工場、縫製工場、加工工場の3社を回りながら、デニムのオリジナルトートバックを製作し最後は藍色に染めあげた。

また、児島鷺羽ライオンズクラブから浴衣をお借りし、着付けをして頂いた後、茶道の所作を教わりながら静謐な雰囲気の中で、茶道部員の点てた抹茶を堪能した。



他にも、倉敷市長表敬や広島訪問など、盛りだくさんのプログラムを無事に終え、鷺羽高校で本校の生徒と一緒に楽しく有意義な時間を過ごし、素敵な思い出をたくさん作ることができた。3月には、本校生徒8名がアメリカを訪ね、約2週間デービス高校で授業を受けることになっている。



# 令和2年度 国際交流

## 『国際交流委員会』

田上 俊幸

今年度は重点目標として次の3点を掲げた。

- ・ 隔年実施の姉妹校交流事業のギャップイヤーとして、デービス高校の生徒との遠隔交流（メール、オンライン会議等）をおこなう。
- ・ AFS長期留学生の受け入れを実施する。
- ・ 国際交流の出前事業を実施する。

### <今年度の主な活動>

#### (1) デービス高校との姉妹校交流

本校は、国際理解教育に力を入れ、国際交流を積極的に推進している。本校の前身の一つである県立児島高等学校が平成9年にアメリカ合衆国カリフォルニア州にある市立デービス高校と姉妹校縁組みをして以来、現在まで関係が続いており、隔年で相互に生徒の交換留学をしている。昨年度は、6月に受入れ、3月に派遣の予定であったが、新型コロナウイルス感染症による渡航規制により、派遣は叶わなかった。

今年度は、WiFi環境と1人1台端末の整備を待ち、1月9日（土）、両校の希望者計19名によるオンライン交流会を実施した。「初めて外国の方と話ができ、伝えることの楽しさや理解することの難しさを知った。」「国は違っても心はつながるんだと思った。」「デービス生はとても日本語が上手だった。私も英語の勉強を頑張ろうと思った。」「次回また参加したい。」と、参加者全員が前向きなコメントを寄せた。



渡航が可能になるまで、継続的に実施していきたい。

同時に、ペンパル（Eメールを中心とした文通友達）を募集し始めた。1月時点で8名の希望者がおり、デービスだけでなくオーストラリアの女子生徒とも文通ができるよう、つながりを作っていきたい。

#### (2) AFS長期留学生の受入れについて

また、長期留学生として、今年の4月より翌年2月までの期間、ニュージーランドからの留学生を受け入れる予定であったが、こちらも無期限延期となっている。今後の実現可能性は不明だが、代替団体とのオンライン上での交流を模索したい。

#### (3) 国際交流の出前授業

7月21日（火）、岡山県国際交流員のEthan Cohn（イーサン・コーン）先生を2年1組にお迎えし、「バイリンガルの大切さ」というテーマでご講演をいただいた。第2言語を学ぶことによって将来の職業の選択肢が広がるだけでなく、物事を多面的に見られるようになる等、ご自身の経験をもとに時折日本語も交えながら英語でお話くださった。講演を聞いた生徒たちは、「何のために英語を勉強しているか、今まであまり考えたことがなかったけど、英語の学習を頑張ることで世界が広がるのがわかった」「海外留学に興味湧いた」などと感想を話していた。小規模での開催となったが、次年度移行も継続していきたい。



#### (4) その他の活動

12月19日(土)、JICA中国主催高校生国際協力体験プログラムに、3年6組瀬尾実結さんが参加した。本来は東広島市にあるJICA中国にて、中四国から集う高校生とともに一泊二日で活動する予定であったが、今年度はオンラインによる一日のみの開催となった。

#### <参加生徒感想>

高校生国際協力体験プログラムに参加して

3年6組 瀬尾 実結

私は12月19日、JICA 高校生国際協力体験プログラムに参加しました。当初2日間の日程で東広島市にあるJICA中国の施設で行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで1日に短縮した日程での実施になりました。

私は、このプログラムを通して、たくさんの気づきを得ました。最も大きなものは、私たちはメディアに踊らされてはいけないということです。私たちはメディアの報道を鵜呑みにしがちです。例えば、私たちはイスラム教徒の人々を「過激派」と捉えてしまいがちですが、実際には9割ほどは過激派ではないことを今回の研修で知りました。また、私たちの偏見で誰かを傷つけているかもしれないこと、外国の人と同じ人間だという当たり前のことにも改めて気づきました。

また、私はこのプログラムを通して、インターネットに頼りすぎてはいけないということも学びました。インターネットは武器にもなりますが、凶器にもなります。大切なのは、まず自分で考えること、他者や物事に関心を持つこと、そしてそこから疑問や興味を持って行動することです。そうすることで、インターネットに振り回されることなく、周囲に配慮できる人になれるということを学びました。

今回残念だったのは、急遽オンラインでの実施となったため、楽しみにしていた他校の生徒たちとの交流が十分できなかったことです。今後、多くの人と交流や情報交換をしたり、様々な事柄を調べたりして視野を広げ、まわりの人を気遣い、役に立てる人になりたいと思います。